



◆ 中国CICの最近の動向

最近の中国の政府系ファンドChina Investment Corporation (以下、CIC)に関連した2つの話題を以下にご紹介致します。キーワードは「組織改変」と「増資」です。

1. 組織改変

3月上旬に中国国務院がCICの組織変更を認可したという報道がありました。

具体的な内容は、①2010年末に新設された香港の子会社であるCIC International (HK) (以下、CIC HK)はCICの対外投資部門として職責を担う、②これまでCIC傘下で中国国内の銀行や証券会社に対する保有株式の管理を行う中央匯金投資 (Central Fuijin Investment Corp)を国有資産監督管理委員会の管轄下に組入れる、ということです。

CIC HKでは昨年11月にFan Kungsheng氏のトップ就任とともに、幹部が大きく刷新され、香港拠点からの外国証券投資の本格化を示唆していましたが、今回の組織改変によりCIC HKの役割が一層明確になったことで、外国証券投資に向けてさらなる積極化、多様化、分散化が進むのではないかと考えられます。

また、中央匯金投資は中国の大銀行の株式を大量に保有(例えば、中国4大銀行の株式のほぼ半分以上を保有)していることから、中国政府が短期的には過熱した経済からのソフトランディングを図るため、中長期的には中国の金融制度改革を円滑に推進するために、中国政府が中国の大銀行に対するグリップを強化するという動きの一つの表れと読むことができると思います。

2. 増資

最近の各種報道によると、中国政府は中国人民銀行を通じてCICに対して500億ドル(邦貨換算約4兆円)の資本注入を行いました。

もともとCICは2007年9月に中国の外貨準備資産の運用の多様化と投資収益の向上を目的に、中国政府外為管理局(SAFE)が2,000億ドル(約16兆円)分の外貨準備を分離して設立した政府系ファンド(SWF)です。SWF専門の調査機関SWF Instituteによると、CICは資産総額約4,396億ドル(約35兆2千億円)でその規模は世界第4位のSWFと推定されます。

CICの投資スタンスは、設立から米国のサブプライム・ローンが問題視されるころまでは、香港上場株式を大部分のポートフォリオに据えつつ、米国の大手金融関連会社(ブラックストーン(投資会社)、モルガン・スタンレー(銀行・投資銀行)、ビザ(カード会社)等)の株式を億ドル単位で政策的に投資したことで注目を集めました。その後は外国株式分散投資の配分を大きく増やしてきました。投資先業種は金融、資源、インフラ、不動産等多岐にわたりますが、1件当たりの金額には小口分散化の傾向が見られます。外部の資産運用会社を活用した活発な投資活動の結果、昨年末時点では資本金のほとんどを投資につき込んだものと見られていました。そこで昨年末前後から増資の話が噂されていたというわけですが、その際CICは1,000~2,000億ドル(約8兆円~16兆円)の出資を中国政府に対して要請していたということです。今回増資された500億ドルという資金は巨額ですので今後どのように投資されるかが注目されていたところに、ひとつのニュースが飛び込んできました。

それは、世界最大の資産運用会社であるブラックロックがCICと組んで大型の海外投資ファンドを立ち上げるといことです。尚、2010年2月時点の情報開示によればCICはブラックロックの7億ドル強相当の株主でもあります。ファンドの詳細な内容は未公表ですが、報道された推測を含むコメントには以下のようなものが含まれています。

- ・ 現バンクオブアメリカ・メリルリンチ中国の会長であるErh Fei Liu氏が転職してそのファンドの責任者となる。
- ・ ファンドの規模は数十億米ドルとなると予想される。
- ・ CICはまず2億米ドル程度をそのファンド向けに拠出する。
- ・ 投資対象として、将来中国企業の買収ターゲットとなるような外国企業が選別される可能性がある。

ブラックロックのアジア戦略上の大きな動きでもあり、ファンドの詳細や今後の動きが注目されます。

【ご参考】CIC拡大の歩み

	主な出来事	総資産（連結） （百万ドル）*	株式資産（連結） （百万ドル）*	グローバル・ポートフォリオの 投資リターン （単年度、%）
2007年	・ CIC設立（政府が2,000億ドルの拠出）	n.a	n.a	n.a
2008年	・ 米国大手金融機関に対して大型出資を相次いで実行	297,540	1,949	-2.1
2009年		332,394	39,828	11.7
2010年	・ CICHKを設立	409,579	65,645	11.7
2011年	・ トロント事務所開設 ・ CICHKの体制刷新			
2012年	・ CICの組織改編 ・ CICに対し政府が500億ドル追加出資			

*いずれも12月末現在
(出所:CICアニュアル・レポートからJSS作成)

また、話題は変わりますが、3月決算の多くの発行会社では株主名簿管理人から既に株主名簿を受け取られたことかと思えます。この2、3年、海外株主名簿上で最も注目されている名義は言わずと知れたSSBT OD05でしょう。

3月22日の日本経済新聞の朝刊によるとキャノンやブリヂストンをはじめとする2011年12月期決算企業11社に係わる同名義の保有株式増減動向は、11社全てにおいて半年前よりも保有比率が増加していたことを報じています。

3月決算企業について当社がこれまで調べた範囲では2011年9月以降SSBT OD05名義の保有株式数は増加している先が多くなっているようです。

今後、各社の大株主情報開示が進むことで、より詳しい動向が分かるものと思われまますので、続報をご期待下さい。